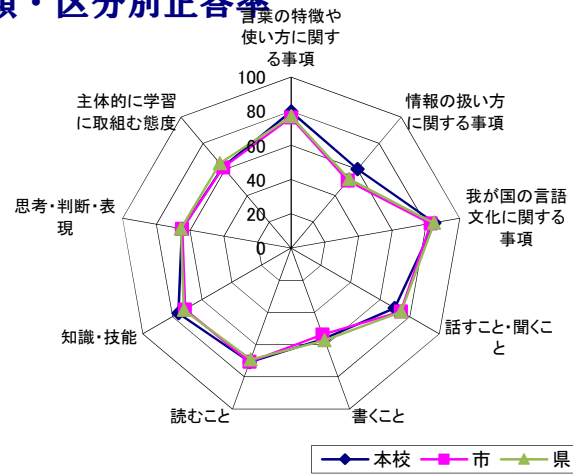


宇都宮市立雀宮東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	79.8	76.4	77.0
	情報の扱い方に関する事項	60.4	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	84.9	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	69.8	74.1	74.2
	書くこと	56.3	53.7	57.2
	読むこと	70.8	70.7	69.2
観点	知識・技能	76.0	71.6	72.3
	思考・判断・表現	64.8	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	61.9	61.6	64.7



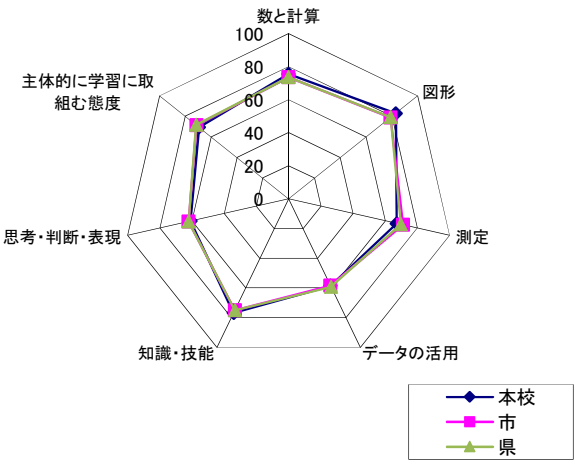
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市や県より高い。 ○漢字を書くことに関する問題では、3問中2問が県の正答率より7ポイント以上高い。 ○言葉の学習に関する問題では、県の正答率より高い。特に「主語と述語について理解しているか」を問う問題は、県の正答率より6.1ポイント高い。 ●「第3学年に配当されている漢字を正しく読んでいるか」を問う問題では、県の正答率より14.0ポイント低く、課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・新出漢字の指導を充実させ、繰り返し音読したり、漢字練習をしたりすることで定着を図る。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市や県より高い。 ○「情報と情報との関係について理解し、考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いているか」を問う問題では、県の正答率より8.9ポイント高い。	・授業で、児童の実態に合わせながら、文章を拡大印刷したものを並べて色分けすることで、視覚的に捉えられるようにするなどの支援の工夫を行う。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市より高く、県とほぼ同じである。 ○「漢字のへんやつくりを理解しているか」を問う問題では、県の正答率より0.2ポイント高い。	・新出漢字を学ぶ時間に、児童にへんやつくりを意識して練習するような授業を展開する。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市や県より低い。 ●話合いの内容を聞き取ることにに関する問題では、全ての問いが県の正答率より低い。特に「相手に伝えるように、自分の考えを、理由を挙げながら話しているか」を問う問題では、県の正答率より10.8ポイント低く、課題が見られる。	・自分の考えを話すことに自信をもたせたり、話すことの喜びが感じられたりするような経験をさせる。 ・授業の中で、どの児童にも自分の考えを発表する機会を増やす。 ・段階を踏んで自分の考えを伝える練習を行っていき、理由を挙げて話すことができるようにする。
書くこと	平均正答率は、市より高いが、県よりやや低い。 ○「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いているか」を問う問題では、県の正答率より7.0ポイント高い。 ●「指定された長さで文章を書いているか」を問う問題では、県の正答率より7.7ポイント低く、課題が見られる。 ●「目的を意識し、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしているか」を問う問題では、県の正答率より9.0ポイント低く、課題が見られる。	・日記や長文問題などを活用して、指定された文字数で文章を書く練習を繰り返し行う。
読むこと	平均正答率は、市とほぼ同じで、県より高い。 ○「情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約しているか」を問う問題では、県の正答率より14.0ポイント高い。 ●「文章を読んで感じたことや考えたことを共有しているか」を問う問題では、県の正答率より7.5ポイント低く、課題が見られる。	・朝の読書の時間や読書週間、家読などを通して、読書の習慣を定着させ、物語文に親しませる。 ・本を読んだ感想を伝え合う機会をつくり、感じたことや考えたことを共有する。 ・物語文の学習では、言葉や動作・表情など、根拠を明らかにして登場人物の気持ちを読み取るよう、指導する。

宇都宮市立雀宮東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.6	73.5	73.6
	図形	83.0	79.0	79.1
	測定	67.2	71.1	69.8
	データの活用	58.5	58.4	59.2
観点	知識・技能	76.8	75.0	75.0
	思考・判断・表現	60.9	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	69.5	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

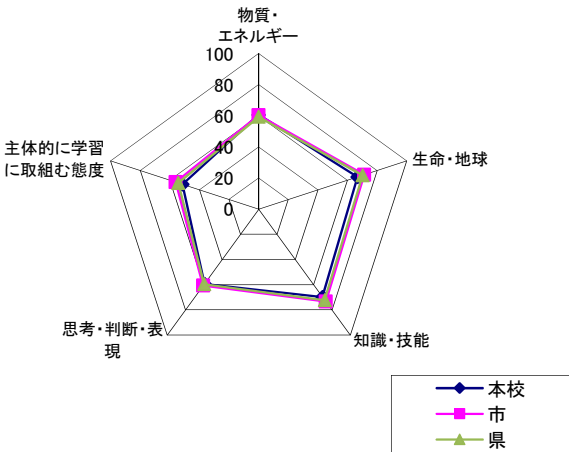
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市や県より高い。 ○基本的な計算に関する問題では、県の正答率とほぼ同じか高く、計算力の定着が見られる。 ●「口を使った文章問題を表した図の構造をとらえているか」を問う問題では、県の正答率より9.7ポイント低く、課題が見られる。	・プリントやタブレットを活用した朝の学習を今後も継続して行い、基礎的事項の定着を図る。 ・数直線などの図を活用した解き方を授業で意図的に取り上げることで、問題と図を児童がつなげて考えられるように支援する。
図形	平均正答率は、市や県より高い。 ○「球の半径から、球が1つ入った箱の辺の長さを求めることができるか」を問う問題では、県の正答率より6.0ポイント高い。	・立体図形の授業では、教室背面の学習コーナーなどにこれまでに学んだ図形の性質を掲示することで、図形の性質を振り返り、学習と結び付けられるようにする。
測定	平均正答率は、市や県より低い。 ●「ある時刻から一定時間が経過する前の時刻を求めることができるか」を問う問題では、県の正答率より11.3ポイント低く、課題が見られる。	・具体物を操作する活動を多く取り入れることで、「測定」に対する感覚を育てられるようにする。 ・朝の学習やプリント学習で、「時刻」「長さ」「重さ」などの単元ごとの内容を補習し、基礎の定着を図る。
データの活用	平均正答率は、市とほぼ同じで、県よりやや低い。 ○「複数の棒グラフを組み合わせたグラフを正しく読み取ることができるか」を問う問題では、県の正答率より5.8ポイント高い。 ●「棒グラフの1めもりの大きさに着目して、間違いを指摘しているか」を問う問題では、県の正答率より8.3ポイント低く、課題が見られる。	・授業で生活に関わるデータを児童が集め、グラフに表して考察し、データを扱うことの有用感を感じられるようにする。 ・実際にグラフに表す際に、目盛りの大きさについて考えさせることで、自分の集めたデータに適した目盛りの表し方について考えられるようにする。

宇都宮市立雀宮東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	60.6	60.2	59.2
	生命・地球	66.7	71.3	70.3
観点	知識・技能	69.8	73.4	72.3
	思考・判断・表現	59.3	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	51.5	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市とほぼ同じで県よりやや高い。 ○「回路を理解し、豆電球の明かりのつき方を推測することができるか」を問う問題では、県の正答率より12.8ポイント高い。 ○「ソーラークッカーで料理ができる理由を説明することができるか」を問う問題では、県の正答率より10.1ポイント高い。 ●「表から、ゴムを長く伸ばすほど物を動かすはたらきが大きいことを読み取ることができるか」を問う問題では、県の正答率より6.9ポイント低く、課題が見られる。 ●「容量の大きい飲料の容器にプラスチックが使用されている理由を、実験の結果から推測し説明することができるか」を問う問題では、県の正答率より5.4ポイント低く、課題が見られる。	・知識・理解に関する問題は正答率が高いため、引き続きプリント学習なども取り入れ、知識の定着を図る。 ・表や資料から結果を読み取る問題の正答率が低かったため、大事な箇所に線を引いたり、話し合い活動を通して考えを説明したりして、理解を深める。 ・「電気の通り道」に関する問題の正答率が高かったため、さらに具体物を通して回路の仕組みを考えさせ、電気を通す物と通さないものの理解を深める。 ・実験から推測することや実験結果の理由を説明することの正答率が低いことから、実験する活動の充実を図り、実験から分かったことをまとめさせる活動を取り入れて理解を深めさせる。
生命・地球	平均正答率は、市や県より低い。 ○「ホウセンカとヒマワリの子葉を理解しているか」を問う問題では、県の正答率より8.0ポイント高い。 ○「完全変態と不完全変態の昆虫を理解しているか」を問う問題では、県の正答率より8.3ポイント高い。 ●「記録カードの内容をもとに、共通点や差異点を見つけ出すことができるか」を問う問題では、県の正答率より13.6ポイント低く、課題が見られる。 ●「正午にできる影の方位を理解しているか」を問う問題では、県の正答率より22ポイント低く、課題が見られる。	・植物の観察記録を通して、植物のつくりを理解するなど植物の育ち方に関する知識の正答率が高かったため、引き続き観察する活動を充実させる。 ・単元では、「太陽と地面のようす」に関する問題の正答率が低かったため、日なたと日かげの温度変化等の実験に取り組んだり、単元が終わっても、日常生活の中で温度を計る場を設定したりして、既習事項の定着を図る。 ・太陽の位置と地面の様子相互関係について、知識が定着していないことから、自分の目で観察し考察する活動を充実させたり、フォローアップシートを活用して復習を行ったりして、理解を深めさせる。 ・体験できる機会が難しい分野や、条件や時期により観察に困難がある場合には、映像資料を活用し、理解を深めさせる。

宇都宮市立雀宮東小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の復習をしている。」と回答した児童の割合は(72.2%)で市の平均と比べると11ポイント以上高い。家庭学習ノートの取り組みや年2回のパワーアップウィークなどの実施により、児童が家庭学習をする習慣がついているからだと思う。今後も、取組を続けるほか、家庭学習の時間や内容にも着目して、充実した家庭学習ができるように働きかけていきたい。

○「毎日の生活が充実していると感じている。」と回答した児童の割合は(90.8%)で、市の平均と比べると4ポイント高い。児童一人一人のよさを認め合う学級づくりや特別活動の充実により自分の存在価値を感じている児童が多い。今後も、児童が自己有用感を感じられるような機会を作り、学習にも結び付けていきたい。

○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。」と回答した児童の割合は(85.2%)で、市の平均と比べると11ポイント以上高い。教師と児童との良好な信頼関係ができていると考えられる。また、児童の学習への大きな探求心の表れだと言える。今後も、教育相談や日頃の児童との関わりを充実させ、一人一人を大切にする指導を心がけていきたい。

○「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている。」と回答した児童の割合は(79.6%)で、市の平均と比べると15ポイント以上高い。全校での辞書引きの取組により、辞書を使って調べることが習慣化していると考えられる。今後も引き続き継続し、力を伸ばしていきたい。

○「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか。」の質問に関して「1時間以上読書をしている」と回答した児童の割合は(87%)で、市の平均と比べると18ポイント以上高い。朝の読書タイムや読み聞かせ、土・日・祝日の「家読」の実施により、読書の習慣化が図られていると言える。今後もこれらの取組を継続させ、読書の習慣化を図っていきたい。

●「新聞を読んでいない」と回答した児童の割合が県と市の割合を上回った。今後は、授業等で新聞を取り入れるなどして、興味を持たせていきたい。

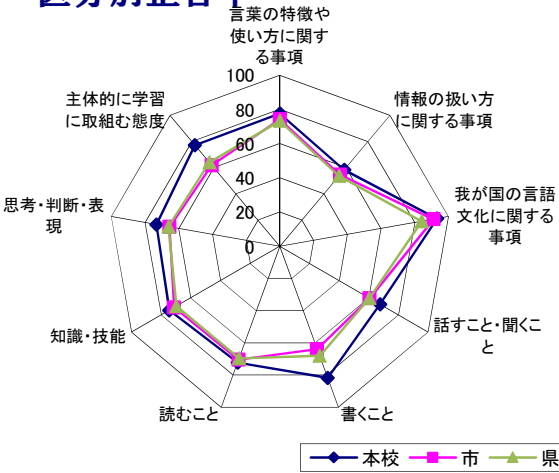
●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。」の質問に対して、肯定割合が低かった。本や情報機器を使って、意欲的に調べ学習に取り組むことができるよう、指導方法を工夫していきたい。

●「朝食を食べていない。」と回答した児童の割合が市や県の割合を上回った。基本的な生活習慣の大切さを学ぶ時間を設けると共に、家庭の理解や協力が得られるように啓発していきたい。

宇都宮市立雀宮東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	77.6	74.2	73.3
	情報の扱い方にに関する事項	58.5	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	93.3	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	67.6	60.6	60.4
	書くこと	81.7	63.8	68.0
	読むこと	72.2	70.4	69.6
観点	知識・技能	74.6	71.3	69.9
	思考・判断・表現	73.2	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	77.3	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

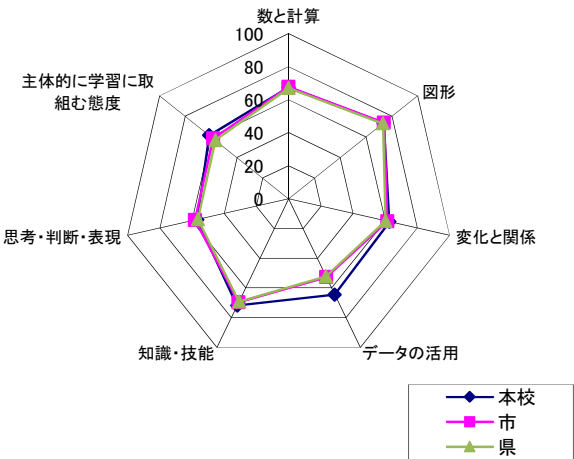
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市や県より高い。 ○漢字の書きに関する問題では、県の正答率より5ポイント以上高い。 ●「連体修飾語について理解しているか」を問う問題では、県の正答率より1.7ポイント低く、課題が見られる。	・国語の時間だけでなく他教科や日記の宿題等においても既習の漢字を正しく書くことを習慣化させる。 ・辞書引きをする際には例文などにも目を向け、言葉の使い方に興味をもたせ、作文や日記等で使用することができるよう指導する。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市や県より高い。 ○「情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話しているか」を問う問題では、県の正答率より15.1ポイント高い。 ●「情報と情報との関係について理解し、段落相互の関係を捉えているか」を問う問題では、県の正答率より6.0ポイント低く、課題が見られる。	・読書をする際には、情報に関する本など様々なジャンルの本を手にとることができるような機会を意図的につくるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市や県より高い。 ○「ことわざの意味を知り、正しく使っているか」を問う問題では、県の正答率より9.1ポイント高い。	・辞書引き学習を継続するとともに、ことわざを使ったゲームや短文づくりなどを行い、児童が興味を持つような授業を展開する。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市や県より高い。 ○「司会の役割を果たしながら話し合い、意見の相違点に着目して、考えをまとめているか」を問う問題では、県の正答率より11.9ポイント高い。 ●「話し手が伝えたいことの中心を捉えているか」を問う問題では、県の正答率より3.0ポイント低く、課題が見られる。	・今後も、話の中心や話し手の意図に気を付けて聞くことができるような授業を展開する。
書くこと	平均正答率は、市や県より高い。 ○文章を書く問題においては、全ての問いで、県の正答率より11ポイント以上高い。	・今後も日記指導を継続して行うとともに、条件を満たす作文を意図的に書かせるなど、日頃から書く活動を習慣化させる。
読むこと	平均正答率は、市や県より高い。 ○「登場人物の気持ちの変化や情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像しているか」を問う問題では、県の正答率より14.3ポイント高い。 ●「登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えているか」を問う問題では、県の正答率より3.1ポイント低く、課題が見られる。	・物語文の学習をする際には、言葉や動作・表情など登場人物の気持ちが表れた部分に線を引いたり、色分けをしたりして、視覚的に捉えることができるような指導を継続して行っていく。 ・説明文の学習では、全文掲示をして、要点や指示語に着目したことが視覚的に分かるようにし、文章構成を考えながら読むことができるように指導する。

宇都宮市立雀宮東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.5	67.8	67.0
	図形	73.6	73.9	73.1
	変化と関係	62.6	61.4	60.2
	データの活用	64.4	52.7	52.1
観点	知識・技能	71.8	69.7	69.2
	思考・判断・表現	56.8	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	61.6	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

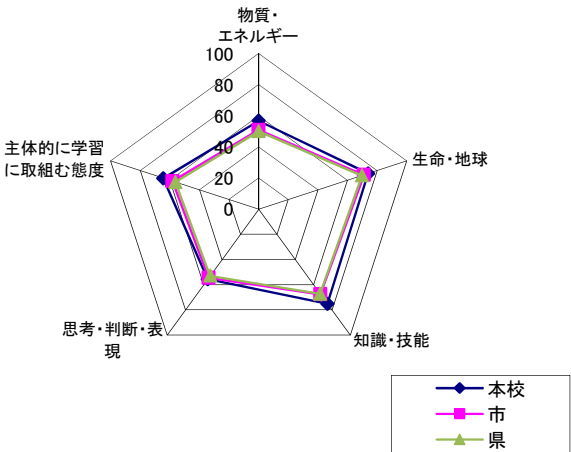
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市とほぼ同じで県よりやや高い。 ○「整数、仮分数、帯分数、真分数の大小比較をしているか」を問う問題では、県の正答率より5.8ポイント高い。 ○「概数に対応する数の範囲を理解しているか」を問う問題では、県の正答率より15.3ポイント高い。 ○「小数第1位、小数第2位の計算ができるか」を問う問題では、県の正答率より13.1ポイント高い。 ●「数直線上に示された分数の読み取り方を理解しているか」を問う問題では、県の正答率より8.6ポイント低く、課題が見られる。 ●「四則の混じった式の計算順序を理解しているか」を問う問題では、県の正答率より6.6ポイント低く、課題が見られる。	・朝の学習の時間を活用し、全校体制で基礎的事項の定着を図る。 ・単元に応じて適応問題や練習問題、ミニテストを計画的に取り入れ、基礎学力の定着を図る。
図形	平均正答率は、市とほぼ同じで県よりやや高い。 ○「四角形の辺の長さの性質を理解しているか」を問う問題では、県の正答率より7.5ポイント高い。 ○「ひし形の作図ができるか」を問う問題では、県の正答率より8.8ポイント高い。 ●「1000円札のおよその面積を選んでいくか」を問う問題では、県の正答率より11.9ポイント低く、課題が見られる。	・具体物の大きさを問う授業を行うことで、児童が量感を捉えられるようになってきている。引き続き量感を意識した指導を行っていく。 ・教室背面の学習コーナーを活用し、繰り返し面積の求め方について復習を行っていく。 ・授業内で適応問題や練習問題に取り組む時間を確保し、学習の定着を図る。
変化と関係	平均正答率は、市よりやや高く県より高い。 ○「伴って変わる2つの数量の一方の値からもう一方の値を求めることができるか」を問う問題では、県の正答率より5.1ポイント高い。	・授業に児童が興味を持てるような場面を取り入れることで、より主体的に学習に取り組むことができるよう工夫する。 ・練習問題に取り組む時間を確保したり、伴って変わる量の意味を児童が自分の言葉で説明する機会を設けたりして、より理解が深まるよう支援していく。
データの活用	平均正答率は、市や県より高い。 ○「折れ線グラフの読み取ることができるか」を問う問題では、県の正答率より17.0ポイント高い。 ○「2つの折れ線グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明しているか」を問う問題では、県の正答率より10.9ポイント高い。	・グラフや表から読み取った内容をグループや学級全体で話し合うことで、児童が言葉で説明しながら理解を深められるようにする。また、クロームブックを活用し、児童が様々な考え方に触れることができるような機会を多く設ける。 ・データ活用に関する問題を身近な日常生活の場面に即した内容にし、児童が意欲的に取り組むことができるよう工夫する。

宇都宮市立雀宮東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	56.7	50.8	50.0
	生命・地球	74.0	71.1	69.8
観点	知識・技能	75.1	67.6	67.2
	思考・判断・表現	55.6	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	64.4	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市や県より高い。 ○「水を冷やした時の温度変化のグラフを理解しているか」を問う問題では、県の正答率より19.9ポイント高い。 ○「水のすがたについて理解しているか」を問う問題では、県の正答率より26.3ポイント高い。 ○「空気、水、金属の順に温度による体積変化が大きいことを理解しているか」を問う問題では、県の正答率より27.6ポイント高い。 ●「押し縮めても水の体積が変わらないことを豆腐の容器に適用することができるか」を問う問題では、県の正答率より11.2ポイント低く、課題が見られる。 ●「金属のあたためり方を理解し、水のあたためり方とともに考察することができるか」を問う問題では、県の正答率より5.1ポイント低く、課題が見られる。	・実験の授業で、結果を確認するだけではなく、なぜそうなったのか理由を説明できるように、原因と結果を確認したり、話し合ったりしながら取り組めるような授業を展開する。 ・図や表を用いてノートに分かりやすく実験結果をまとめられるように支援していく。 ・今後もフォローアップシートや単元復習プリントなどで、学習の内容を振り返り、繰り返し学習することで基礎的事項の定着を図る。
生命・地球	平均正答率は、市や県より高い。 ○「グラフから、ヘチマの茎の伸びと気温の変化の関係を読み取り、説明することができるか」を問う問題では、県の正答率より15.1ポイント高い。 ○「1日の気温の変化のグラフから晴れの日を判断し、その理由を説明することができるか」を問う問題では、県の正答率より17.4ポイント高い。 ○「結晶の現象について理解しているか」を問う問題では、県の正答率より19.6ポイント高い。 ○「星座は時間経過とともに位置は変わるが、並び方は変わらないことを理解しているか」を問う問題では、県の正答率より13.3ポイント高い。 ●「土は高い場所から低い場所へと流れて集まることことを理解しているか」を問う問題では、県の正答率より8.8ポイント低く、課題が見られる。 ●「土の粒の大きさと水はけの関係を指摘できるか」を問う問題では、県の正答率より11.6ポイント低く、課題が見られる。	・十分に基礎力が定着している「月と星」や「1年間の植物の成長」などは、さらに復習プリントを活用して、力を伸ばしていけるように支援する。 ・映像資料を効果的に活用し、「雨水のゆくえと地面の様子」についての理解を深められるようにする。 ・雨水についての学習は、児童にとって身近な内容であるため、実生活と関連付けたり、実際に雨の日に地面の様子を観察したりして、理解を深められるようにする。

宇都宮市立雀宮東小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で勉強するときに、だいたい同じ時こくに取り組むようにしている。」と回答した児童の割合は(86.7%)で、市の平均と比べて15ポイント以上高く、学校全体で実施している家庭学習パワーアップウィークや日々の自主学習など、家庭と連携した取組による成果であると考えられる。今後とも、学校と家庭で連携し、家庭学習の習慣化に向けた指導や啓発に努めていきたい。

○「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている。」と回答した児童の割合は(93.3%)で、市の平均と比べて5ポイント以上高く、個人解決を促す指導の工夫や個人解決にあてる時間を確保した授業の工夫によるものであると考えられる。今後は、課題解決に結び付けられるような指導や支援の充実を図っていき、学習に対する意欲をさらに高めていきたい。

○「学習して身に付けたことは、しょう来的な仕事や生活の中で役に立つと思う。」と児童全員(100%)が回答した。市の平均と比べて4ポイント以上高く、学習する意義を児童が感じられる授業や指導の工夫による成果であると考えられる。今後も、児童が主体的に学ぶ授業を工夫し、課題意識をもたせたり、学んだことを生かせる場面を取り上げたりしていきたい。

○「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」と回答した児童の割合は(82.2%)で、市の平均と比べて4ポイント以上高く、共感的に話を聞いたり、自分の考えと比べながら聞くことの指導が浸透していることによる成果であると考えられる。今後は、話し合う活動の際に、自分の考えを積極的に相手に伝えることや考えを整理して分かりやすく伝えることにも努めていきたい。

○「先生は学習のことについてほめてくれる。」と回答した児童の割合は(93.3%)で、市の平均と比べて5ポイント以上高く、ほめて伸ばす指導に力を入れて取り組んでいる成果であると考えられる。今後とも、児童一人一人をきめ細かく見取り、それぞれの児童に応じた言葉かけにより、教師と児童の信頼関係の構築に努めていきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい。」と回答した児童の割合は(77.8%)で、市の平均と比べて15ポイント以上高い。文や文章の構成についての知識を身に付けさせたり、自分の考えを整理してから文章を書かせたりするなど、指導の工夫を図っていきたい。

●「自分にはよいところがあると思う。」と回答した児童の割合は(66.7%)で、市の平均と比べて10ポイント以上低い。学校全体で行っている「にっこりさんカード」を今まで以上に活用したり、児童の善行や頑張りを教師が見逃さず全体に紹介したりするなどして、自己肯定感が高まる指導の充実を図っていきたい。

宇都宮市立雀宮東小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・論理的思考力の向上を目指し、確かな学びにつながる授業の工夫 ～ICT機器の効果的な活用を目指して～	・アンプラグドプログラミング学習を積極的に取り入れ、論理的な思考力を育成する。 ・プログラミング学習を通して、目的に応じて見通しを立て、試行錯誤しながら課題解決に取り組めるような授業づくりをする。 ・ICT機器を授業に取り入れ、各教科で効果的に活用する。	・「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」の問いには、県や市の肯定回答率より高い。 ・「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の問いには、県や市の肯定回答率より高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語科における「話し合いの内容を聞き取ること」や、「話し手が伝えたいこと」の中心をとらえているか」など、話し合い活動に関する課題が見られる。 ・算数科における「文章問題を図に表すこと」や「数直線の読み取り」などに課題が見られる。	・話し合い活動の充実を図る。 ・基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。	・各教科において、自分の意見をしっかりと伝えるときに、友達の意見をしっかりと聞いて、自分の考えを深めたり、広げたりする活動の充実を図る。 ・算数科においては、特に文章問題の意味を図に描いて表すことや図から読み取る活動を意図的に繰り返す。